



行發日曜日週毎... 印刷所 大和印刷所

示 黙 の 秋 る な 嚴 森

◇高く藍碧のやうに澄み渡つた大空、葉末をわたる風の音にも清爽の秋はひたたくと追つて来た。

◇清冷水のやうな秋の色、勁烈剣の如く心靈に透り来る秋の自然。

◇我等はいま森嚴なる人生のすがたを想ひ自己生存の意義について静かに省みる處があらねばならぬ。

◇自己の内省とは何であるか。

◇現代人はあまりに享樂と慾塵に流れ科學は徒らに人間慾を満たす知識的器具なのである。

◇宗教と哲學とは全く其の尊嚴を失ひ文藝も美術も淫蕩のかけを越えてやまない。

◇しかも財界の行詰りは一種の暗き絶望と共に社會組織に向つて物凄い匕首を内めかさんとしてゐる。

◇ああ我等は心の扉を開き暗然たる眼を開いて平和なる革命へど其一步の連鎖は静より動へ省察より躍進へと展開して行かうは無か

◇自己を省察確立して我等は讀者諸君と共に奮闘と發展との行進曲を奏するものである。

識知の告廣

商業家として廣告が必要か必要でないかは論ずる余地が無い然るを平町某有数の商店主(特に名を秘す)が廣告を出したからと一ト品でもよけいに賣れるものではない其の金で晩酌の一本もやつた方が仕事の仕力があ

必要不必要は問題でない

頑迷なる某平商店主に教ふ

その迷論を店頭でお客様相手に盛んに雄辯を振つて居たことを筆者は耳にしてこんな保守的の頭の持主だからこんな怪かてきな言ひだを...と感

じ入つたことはごく最近の語である彼はまた曰く「廣告なんて卑劣な事を

公衆に告知若くは發表することになるのだから之から考へてみたなら商人として廣告をしてゐない者は一人もないのである店舗や商品に自分の名を附すことが

蘭 價 安

▲經營する桑園三反歩の桑葉上買数は二百三十五貫代金一貫七錢にて十六圓四十五錢小作代三十五圓肥料代三十圓、計差引四十八圓五十五錢の欠損である但し勞銀を計上せず。

▲それから生繭十五貫百の生産費は桑代二十一圓七錢と見、十五貫百の代金四十八圓五錢計二十七圓八錢繭一貫目を一圓七十錢と見、十五貫百の賣上代金二十五圓五十錢に付差引一圓六十八錢の欠損であるそれに諸税金勞銀等を計上すれば

石城郡農會に望む

石城郡農會は經費殆んど毎年度萬圓餘額を使用し農會自身又農會主務者としては農會の主任を以て立ち農會の利益代表機關として任じてゐる様であるが郡内の農民としては決して讚辭どころか不平悶々町村農民の膏血を絞る不届の輩と稱し又無用の長物として郡農會は宜しく解散すべく廢止すべしと常に罵詈雑言の的となつて居る郡農會果して廢

值安物賣出戰の開展

各吳服店の競争行進曲

半町に於ける各吳服店では昨今冬物安値大賣出しの立看板を店頭は勿論町々の要所に樹立して人氣を呼掛け居るが一般に此の殺人的な不況に見舞はれてゐる折柄、値安品に集るかの如く、然して本年の買付準備に就て見るに恩給は實に一億三千四百五十萬一千圓に達して居る毎年少くとも三百萬圓乃至五百萬圓増加の傾向にある國民が國稅として納付する所得稅は毎年約一億圓である恩給額が終に近しと云ふ可し恩給亡國論の高唱せらるゝも亦當然と云はざるべからず試みに本年度の恩給額一億三千圓

青 眼

昨今喧しく問題となつてゐる恩給が、遂年如何に暴降するかを以て増加し行くか左表によつて頗る明白である。

大正八年度 三、八七〇、〇〇〇
 同 九年度 三、一〇〇、〇〇〇
 同 十年度 三、〇〇〇、〇〇〇
 同 十一年度 三、〇〇〇、〇〇〇
 同 十二年度 三、〇〇〇、〇〇〇
 同 十三年度 三、〇〇〇、〇〇〇
 同 十四年度 三、〇〇〇、〇〇〇
 同 十五年度 三、〇〇〇、〇〇〇
 昭和元年度 三、〇〇〇、〇〇〇
 昭和二年度 三、〇〇〇、〇〇〇
 昭和三年度 三、〇〇〇、〇〇〇

少くとも二十餘圓の欠損であつて今の世の中、廣告の用がないなど、商人は早晩潰れてしまふのである。

石城郡農會の如何にあり得るに政黨の統一の分岐に出來て來たことは一面には進歩のみに供せられ因縁付の人々のみでは駄目だ、農會役員一般の又其弊害も多大なるものである職務の分擔事業の分界又兩者の連携の一致等識人物は殆んど官廳に集つて居る農會に少くも農會には人物が少くも農會は大に注意を要すべきである現在本邦の農業政策の通順を考ふるに農會と官廳より二流れがあつて場合に依つては相殺矛盾した無駄の努力も其間に介在して居る農會の余りに手出しするは官廳が盛んに手出しするため農業獎勵機關の連

しなくては既に自覚せんとする有用に働かざるものは人間の資本の投下を混視しては資本の増加利用増進の活動力も有るもの有利の本領である石城郡農會も本領の概より逸出して新らしく生れやらん事を要求してやまぬのである。

と他省の豫算額を對照せんと農林省の豫算は五千九百四十萬一千圓商工省の豫算は一千三百三十七萬八千圓二者を併し漸く七千餘萬圓恩給額の約半額である文部省の豫算は一億四千四百十萬一千圓(特別會計を除く)であるからこれのみは稍々恩給と同額である國家が毎年生産的に支拂ふ恩給が産業の發達工業の振興に必要な諸建設に要する農林商工兩省の豫算の倍額に當り而も國運の消長に關する文部省所轄の教育豫算が恩給と同額なりと云ふに到つては不條理も亦甚しと云はざるべからず更に一億三千餘萬圓と云へばは一般會計のザツト約一割に當る事を思へば恩給は將來必ず國家の財政を危殆に導くものと見做す可きである恩給法の公正が朝野に喧傳するも故ありと云可し

大切な一票

来た、来た。
「課税決定すべき資料調査の委員選挙の日」とおそそかに呼ばれる十月十六日はついに四日のあきこ迫つて来ました。

一票をもつて居るものは三省する要に迫られて居る譯です。

所謂この殺人的不景氣は過去の財政事態を何人でも保持して居るは到底出来がたい世相なのです、此處に波瀾は誘發され變化が生ずる事になつて精密なる調査の必要が起るので、變轉極りなき不況時には個人財産に於て漫然たる従来の腰タメシの調査では課税の公平は期せられませんが、特別に今度の委員選挙の重大化が現れるのです、然し定員数の候補者ごすれば無競争を意味しますが其の票の多少に依つて「清き一票」の形式に選挙人から信認の度合を示してもらうことになる重要な日は十六日なのです。

そして選挙人の方から言へば貴重な一票、眞に貴重な一票、この一票のほかそれこそ何の税率査定に自由をもつて居らないたつた一票の権利であり、ます爲め此の一票が持つ自由と権利を最大限に威力と効果を發揮させなければならぬはありませぬか。

来る人……自分等の營業と生活状態を理解し得る人……そして權利と利益を擁護し伸張して呉れる操守固く主張に忠實に自己の任務を自覺してゐる人……にけにも大切な一票を投じなければ與へられたる選挙權を無意味にしてしまふではないか。

以上の希望に光を望んで躍進せんとする新人、眞摯熱情氣魂その新しい理解と識見を有する民衆の生活に常によく直觸し敢て善辭を辭さない加藤丈夫氏の如きは人物と云へ人格と謂へ最適任者ではあるまいか。

- ### 貴重一票は
- 人物何人へ
- 加藤 丈夫
 - 野崎 滿藏
 - 柏原 幸次郎
 - 阿部 唯次郎
 - 猪狩 庄平
 - 赤津 修一
 - 赤津 庄兵衛
- 所得調査委員候補者

僕新聞

興平生
僕新聞は印刷業新開業を營んで居る、そして食糧なるが故に兎角世間から誤解され、又今は物の履行に大なる追害を加へられて居る、過渡期に於ては、吹き廻しは全部食ひ込みの状態で、去の人情味が風を吹かす、結果は今、権利の主張と、なつて筆紙に表せぬ名譽、救済の心、心胸に損傷を與へられて居る、一面印刷業は、大衆の同情を得て此の時に相續して、有様である。

不景氣と工口廣告

恥を捨てた
花街の新案
徹底的な不景氣に各小商人は、追害を加へられて居る、過渡期に於ては、吹き廻しは全部食ひ込みの状態で、去の人情味が風を吹かす、結果は今、権利の主張と、なつて筆紙に表せぬ名譽、救済の心、心胸に損傷を與へられて居る、一面印刷業は、大衆の同情を得て此の時に相續して、有様である。

讀者會館

平町鍛冶町ヨリ南ナル〇〇
商會内ニ不都合極マル婦人ガ居ル彼ハ教職ニアリナガラ變ナリモアリ兎角ニ問題ノ所有者デアルカラ注意ガ肝要デアル。

世相の様々

小川郷 吉岡獨歩
米増收の豫想も米價安
取れ餘る米を今、頭筋にし

川柳

平町南町
耳鼻咽喉科 外科花柳病科
レントゲン科
高久病院
平町南町 電話五三三番
醫學士 高久 忠
醫學士 赤羽 清
薬剤士 佐竹 菊雄

大和田印刷所

電話四六番
以上はまだい、方々尙酷いのに、
時は今野球時代云々の前書きに一室室、二室室、三室室、本堂打機、安打室満室、遊樂室と命名致しました
なごがあるかと思ふと
▼藝妓募集年齢十六歳以上二十三、四歳まで衣類三味線貸ます素人の方諸藝妓ふ月給百圓
といったやうな棚からボタ餅式の廣告なごザラに發見できる。

命まで緊縮をする不景氣さ
企ひの爲めの犯罪者様出
背に腹は換へられぬのが生
んだ罪
▼不景氣からの一家心中もあり一連托生も腹ペコぢやちと哀れ
▼欠食學童の多きこと
▼極度の要上高減少
▼結局はなでしこ黨も廢める
▼皮肉な産兒制限器の廣告
▼不景氣が考へさせるベツサ